

国民の世論と運動で、「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

ほっかいどうの社会保障

2017年1月20日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

中学校卒業まで 医療費を無料にしてください

道社保協、新婦人・道教組・保育連・民医連が 北海道に要請

1月16日、道社保協をはじめ新婦人の会道本部、道教組、道保育連、道民医連は共同で、北海道に対して、中学校卒業まで医療費の無料化を求める要請書を提出しました。

「胸を張れない」全国最低ランクの制度の改善を

道内でも、市町村による医療費の無料化が広がっていますが、市町村は北海道の助成に上乗せして実施しています。このため、道の制度を充実することが各市町村の負担軽減につながり、さらに医療費助成(無料)制度の充実につながります。

北海道の助成対象は、**通院は就学前、入院は小学生まで**で、窓口負担は3歳未満と住民税非課税世帯は無料(初診時一部負担あり)ですが、それ以外は**1割負担**で、**月の上限が外来は12000円、入院が44400円**です。しかも一定の所得以上の世帯は対象になりません。

一方、群馬県では、外来、入院とも中学生まで無料で所得制限もありません。他都府県でも、助成する対象を中学生まで広げるところが増え、窓口負担も無料が僅かな負担となっています。

北海道の担当者も、「8年間見直しをしてこなかった。決して胸を張れる制度ではないと思う」と回答せざるをえないほど全国でも最低ランクの制度となっています。



「発熱しても受診をがまんさせた」 道も検討

参加者からは、「子どもは、いつ病気になるかわかりません」「夫が病気で退職して私のアルバイト収入で、3人の子と暮らしています。先日小学1年の息子が発熱しましたが、医療費がかかるのでがまんさせました」「小学生の子どもが、急なけいれんで入院しましたが、1泊2日で2万円の支払いに負担の大きさを実感しました。友人に話すと『そんなにかかるなら入院させられない』と不安でいっぱいの方が聞かれました」と次々に発言。

道の担当者は、「みなさんの声をお聞きして、改めて支援に必要性について認識しました。国としての制度の充実を求めるとともに、道としても顔を上げられるくらいの制度にするように考えたい」と話しました。

子ども医療費無料化を求める北海道ネットワークを準備中

より幅広い団体や個人に呼びかけて、北海道の子ども医療費無料化を求めるネットワークの準備をはじめています。

高校生への医療費助成 道内55市町村 北海道保険医会が調査

地域格差のない充実した制度を

道保険医会は、道内の市町村の医療費助成制度を調査し、その結果を発表しました。

「本調査では、助成制度の内容が、各自治体間で大きな格差があることが明らかになった。乳児・学童期に十分な受診機会を与えることは、子の健全な育成に寄与するだけでなく、地域の発展や将来の社会保障の在り方にも影響を与える。地域格差の無い充実した制度の実現が望まれる」とコメント。

引き上げが続く入院時食事代こそ助成を

また、入院時食事療養が連続して負担増となります。「入院時食事療養への助成は、現在でも38自治体しか対象としておらず、今後は入院時食事療養への対象拡大も要求項目として重視されよう」と指摘しています。



2/6 SOSネット総会・学習会 「子どもの学習支援をすすめるKacotam」

雇用・くらし・SOSネットワークは、2月6日総会を行います。総会の前に学習会を開きます。

札幌市内で、ひとり親家庭の子どもたちの学習支援をしている「特定非営利活動法人 Kacotam(カコタム)」の高橋理事長がお話します。是非、ご参加ください。

2月6日(月)18時～ 南大通ビル 2階会議室